

有限会社ツノダ塗装 殿

東和酵素株式会社
報告者 重田和麻

ミタゲンクリアー報告書

貴社ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

8月21日に採水した貴社ブース循環水の状況をご報告致します。

敬具

1. ブース循環水の状況

	pH	粘度 (秒)	有効菌数 (ミタゲン菌)
塗装ブース	7.3	7.6	1ml当り 0.5×10^5
【弊社推奨値】	6.0~8.5	7秒台	1ml当り 1.0×10^5 以上

※水粘度はNK-2型の粘度カップを使用しています。

2. 所見

サンプル水測定の結果、循環水のpH・粘度は至適範囲内の数値を示しており、ミタゲン菌の繁殖に適した環境になっております。有効菌数が少ないため、投入数量を1度で良いので2袋にしてください。

顕微鏡観察の結果、原生動物が確認できることから、ミタゲン菌によるブース水の浄化がされている様子が伺えますが、全体的にフロックが小さく、遊離バクテリアが多く確認できることからミタゲン菌の活性が低い状態です。しかしながら原生動物（ユグレナ）も確認することができました。原生動物は汚水の中では生息することができません。原生動物の出現はミタゲン菌によりブース循環水が浄化されていることを示します。

ミタゲン菌は好気性菌のため、十分に活性化するためには適切な溶存酸素が必要となります。バイオブースにおいてはスラッジが蓄積すると、循環水量が減少するとともに溶存酸素の総量も減少してしまい、浄化効率が著しく低下します。バイオ処理を効率よく行うためには、水槽内に溜まったスラッジは出来るだけこまめに除去して頂き、適正な量を維持する必要がありますので、日々の管理を引き続きよろしくお願い致します。

塗装ブースは菌の生息にとって厳しい環境にあり、ミタゲン菌も徐々にダメージを受けて活性力が衰えてしまいます。定期的にミタゲンクリアーを投入することで活性力のあるミタゲン菌が確保され、安定したバイオ処理を行う事が出来ますので、菌の補給投入も併せてお願いいたします。

塗装ブース循環水の顕微鏡観察状況

撮影日：8月26日

サンプリングしましたブース循環水の状況についてご報告致します。

倍率 400倍
生物相
ユーグレナ
ミタゲン菌のフロック
遊離バクテリア
スラッジ

